

身近な植物，春の七草について知ろう

年が明けて 1 月 7 日に七草がゆを食べ、邪気を払い、一年の無病息災を願うという風習があります。しかし、この七草がどんな植物なのか具体的に知っている方は少ないと思います。七草のほとんどは身近にみられる植物です。冬の時期は寒さに耐えるための姿になっているので、探しづらいかもしれませんが、春には元気な姿を見せてくれます。春の野に七草を探しにでかけるのも、おもしろいかもしれません。



a0708

芹（せり） セリ

セリ科の多年草。水辺に生え、独特のにおいがあり、よく似たドクセリと区別できる。花期は 7 月から 8 月で、白くて小さな花を咲かせる。



a0261

薺（なずな） ナズナ

アブラナ科の越年草。道端や田畑などにふつうにみられる。ぺんぺん草ともいう。花期は 2 月から 6 月で、白くて小さな花を咲かせる。



a0261

御形（ごぎょう） ハハコグサ

キク科の越年草。道端や畑などふつうにみられる。葉や茎に白い綿毛が生える。花期は 4 月から 6 月で黄色の花を咲かせる。



斎木健一氏

繁縷（はこべ） ミドリハコベ

ナデシコ科の越年草。道端や田畑などふつうにみられる。花期は 3 月から 9 月で、白くて小さな花を咲かせる。よく似たコハコベの説もある。



平田和弘氏

仏座（ほとけのざ） コオニタビラコ

キク科の越年草。水田まわりの湿地にみられる。花期は 3 月から 5 月で黄色い花を咲かせる。春の七草で仏座は一般に本種を指す。



a0034

ホトケノザ

シソ科の越年草。道端や田畑などふつうにみられる。花期は 3 月から 6 月。紫色の花を咲かせる。本種は春の七草ではなく、食用にはむかない。



BDC

菰（すずな） カブ

アブラナ科の野菜。肥大化した球形の根の部分を食べる。冬が旬。千葉県が全国生産量の第 1 位で、柏市が最大の生産地（2016 年度）。



BDC

蘿蔔（スズシロ） ダイコン

アブラナ科の野菜。肥大化した根の部分を食べる。冬が旬。千葉県が全国生産量の第 1 位で、銚子市が最大の生産地（2016 年度）。

春の七草の健康機能

種類	効能
セリ	発汗作用、コレステロール排出等
ナズナ	熱さまし、利尿作用等
ハハコグサ	咳止め、利尿作用等
ミドリハコベ	整腸作用、利尿作用等
コオニタビラコ	整腸作用、高血圧予防等
カブ・ダイコン	タンパク質や脂肪の消化促進等

七草がゆに使われる 7 つの食材は栄養豊富で、正月料理で疲れた胃を休める意味もあるそうです。

古典文学と里山の生きものたちの世界

第三回 イノシシ *Sus scrofa* 鯨偶蹄目イノシシ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生きものたちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生きものとかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、今年度から生物多様性センターに嘱託職員として勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

時あたかも亥年となりました。房総半島のイノシシは、狩猟圧や豚コレラの流行などの要因により、1970年代までに絶滅またはそれに近い状態となったと考えられています。その後、人為的に放獣されたものが増加した可能性が高く、現在ではご存知のように県内各地にその分布を拡大しています。

イノシシと言えば、平成29年度には、県内で、他の鳥獣類と比べ断トツの1億8,900万円あまりの農作物被害を計上している動物です。この農業国・日本で、昔の人はそんなイノシシのことをどう思っていたのでしょうか。おなじみ万葉集の巻十二には、詠み人知らずのこんな歌が収められています。

たまあ あいね ししだも ごと はは も
魂合はば 相寝むものを小山田の 鹿猪田禁る如 母く守らすも (*1)

魂が合えば君と一緒に寝たいものだが、イノシシやシカから山の田んぼを守るように、お母さまが君を守っている（だから手が出せない）、という歌です。まことにストレートというか、年頃の女の子の母親にとっては、娘に近づいてくる男など農地を荒らす動物のようなものでしかないというのも凄まじいですが、詠み手の男のほうにそれをちゃんと自覚しているのもなんとなくおかしいですね。逆に言えば、イノシシやシカのような動物というのは大切な娘に言い寄ってくる男くらい要注意な存在だった、ということにもなるわけです。

「魂合はば」という、文字通りソウルフルな呼びかけで始まるこの一首。田畑をうかがう動物の姿も、親の目を気にしながら恋愛する若者たちの姿も、千年以上の時を超えて、現代の私たちの目の前に生き生きと迫ってくるかのようです。



原画 下稲葉さやか氏 版画 山本伸子氏

(*1) 新日本古典文学大系「万葉集」(岩波書店)による

<これからの季節に観察できる生きもの>

- 調査対象種：イタチ、キジ、アカガエル類（卵）、トウキョウサンショウウオ（卵）、ニホントカゲなど
- 調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。
 - * 冬のタカ類、フクロウ類、ハヤブサ類
 - * 両生類、爬虫類など
 - * タヌキ、ハクビシンなどの哺乳類

<システム復旧のお知らせ>

長らく停止しておりましたが、にぎわい調査団報告システムは新年1月より復旧しております。大変ご迷惑をおかけいたしました。皆様からのご報告をお待ちしております。

<生命のにぎわい調査団 現地研修会>

「梅ヶ瀬溪谷で冬の生きものと地層を観察しよう！」

平成31年2月24日（日）11:45～15:30

または2月26日（火）11:15～15:00

集合場所：梅ヶ瀬茶屋駐車場 養老溪谷駅より徒歩30分（車で8分）

定員：各日30名（定員を超えた場合は抽選） 締切：2/7（木）

<生命のにぎわい調査フォーラム&写真コンテスト>

平成31年3月2日（土）13:00～16:00

中央博物館講堂にて

観察事例紹介と写真コンテストの応募をお待ちしています。

締切：事例紹介1/31（木）、写真コンテスト2/14（木）